

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Sep.2011

9

No.611

特集

諦めない強さ

震災をものともせず、全国制覇を成し遂げた
猪苗代中学校特設バドミントン部
(富岡第一中学校バドミントン部)
夢、感謝、諦めない気持ち、復興…
彼らがシャトルに乗せた思いとは
(写真提供 高嶋誠司氏)

Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

諦めない強さ

全国にその名を知られた強豪、富岡第一中学校バドミントン部。東日本震災は、彼らの生活も一変させた。慣れない土地での生活、短い練習時間、以前とは程遠い環境の中で、なぜ彼らは全国制覇という偉業を成し遂げることができたのか。彼らの頑張りが富岡、猪苗代の両町民に与えたものとは



写真上 男子団体の決勝戦、優勝を決めガッツポーズをする西豊選手(3年・右)と渡辺勇大選手(2年・左)。西選手はこの瞬間のことを「うれしすぎて覚えていない」と話した



猪苗代中学校
菊池 芳次 校長
Kikuchi Yoshiji

彼らが転入してくるときは、学校や生活など、全く違う環境にすぐに溶け込めるのだろうかかと心配もありました。しかし、それは取り越し苦労に終わりました。競技に対する意識の高い生徒たちは、そのほかの面でもきちっとしていました。迎える側になった本校の生徒も新しい仲間を歓迎していました。彼らの素晴らしい活躍は、猪中の生徒だけでなく、富岡と猪苗代の両町民、県民を勇気づけてくれた。これからも一歩一歩努力を重ね、活躍してほしい。



猪苗代中バドミントン部
元主将
五十嵐澄江 さん
Igarashi Sumie

私たちの新しい仲間になった特設バドミントン部。そのプレーを見るだけで自分たちのレベルアップになりました。そして何より、バドミントンという競技が好きだという気持ち、取り組む姿勢にすごくいい刺激を受けました。彼らは、競技を離れると自分たちと変わらない普通の中学生。一緒に騒いでいる仲間です。震災という悲しい出来事のおかげで知り合った私たちですが、彼らにはどんどん強く、有名になって福島を盛り上げてほしいです。

7月22、23日の両日、田村市で開催された県大会では、すべての種目で上位を独占。圧倒的な力を見せつけた。8月5日から7日までの3日間にわたり山形県鶴岡市で開かれた東北大会でも、全6種目を完全制覇するという快挙を成し遂げ、見事全国大会への出場を決めた。

富岡町を離れて

8月に開かれた全国中学校体育大会バドミントン競技で、団体、個人ともに男女アベック優勝を果たすなど、輝かしい成績を残した猪苗代中学校特設バドミントン部。原発事故がなければ、その名は富岡第一中学校であるはずだった。震災や原発事故に翻弄されながら、それでも努力を続け、夢を勝ち取った生徒たち。彼らの全国制覇までの道のりを紹介する。

東日本大震災後に起こった東京電力福島第一原発事故。この事故で警戒区域に指定された富岡町の富岡第一中学校は、生徒

いた。たくさんの方が自分たちを支えてくれるおかげでバドミントンが続けられる。もう一度仲間たちと一緒にバドミントンがしたい。あのメンバーで戦って全国制覇し、支えてくれた人に感謝の気持ちを伝えたい。その思いは、日ごとに大きくなっていった。

猪苗代からリスタート

連携型中高一貫教育「双葉地区教育構想」の連携高である富岡高校のバドミントン部が猪苗代高校にサテライト校を設置したことで、中学生も猪苗代で活動することになった。仲間と一緒に全国制覇を目指す

全員が避難、転校を余儀なくされた。寮生活を送っていたバドミントン部の部員たちも、3月12日は川内村、次の日からは郡山市で避難生活を送った後、実家に帰るなどで一時離れ離れになった。
「震災後、もうバドミントンは続けられないかと思った」と当時を振り返るなど、不安を抱いていた部員たちも少なくなかった。しかし、その不安を払拭したのは、多くの人の支えや仲間存在だった。
地元のジュニアチームや実業団が練習をさせてくれた。練習場所を探してくれたり、作ってくれる人もいた。シャトルや練習着などを提供してくれる人も

したい。部員たちの思いは同じだった。19人が猪苗代に集まり、猪苗代中学校から全国制覇を目指すことになった。転校後、生活リズムの違いなどに戸惑ったが、次第に慣れていった。
2カ月間のブランクを経て始まった本格的な練習。専用の施設があった富岡とは練習環境が違った。練習時間は格段に短くなった。カメラナや第2町民体育館に空きがなければ、他の学校の体育館、校舎の階段やフロアが練習場所になった。しかし、部員たちに不満はない。

「猪苗代の人たちは自分たちを好意的に受け入れてくれた。練習もほぼ毎日カメラナでできていた。仲間がいて、練習場所もある。ここにきてよかった」
仲間と一緒にバドミントンができる、学校に通える幸せ。部員たちは、今まで当たり前だと思っていたことの一つ一つに感謝し、その時間を大切に過ごした。

Chapter 1 夢に向かって





全国大会で試合を見守る齋藤監督

猪苗代中学校特設バドミントン部

齋藤 亘 監督 Saito Wataru

全国大会は、終わってみれば6種目中5種目で優勝という結果になった。しかし、どれも今までに経験したことが無いような厳しい試合だった。

4月には活動の見通しすら立っておらず、2カ月のブランクを経て、猪苗代で練習できたのは約3カ月間だった。

生徒たちには、震災や練習時間が少ないことを言い訳にするな、ハンデだと思ふなと言ってきたが、やはり体力不足や試合経験不足を感じる場面が何度もあった。

それでも結果を残せたのは、精神面の成長が大きい。震災は大きな被害を与えたが、同時に精神面を鍛えてくれた。諦めないことや試合を楽しむ気持ちが大切だとあらためて教えてくれた。

震災前、富岡一中には約280人の生徒がいたが、現在は約130の学校に散り散りになっている。

今回の全国優勝のニュースは、そうした生徒たちや避難生活を送っている人たちのためにできる最高の報告だ。

何でもやればできる。
諦めない気持ちは大切だと思った
高嶋 道 選手(左)



ネームは猪苗代だが、富岡一と二つの看板を背負っていると思っていた
林 達也 選手(右)



たくさんの人のおかげでバドミントンができる。
そのことに感謝して頑張っていきます
大堀 彩 選手



震災を乗り越えて手に入れたメンタルの強さ
諦めない心を得られたのは大きかった
古賀 穂 選手

毎日練習ができるのはすごいこと。
感謝しています
田島 優乃華 選手(右)



友だちにももらったミサンガ
全中でもつけていました
渡辺 帆南 選手(左)

組と戦うという目標にはわずかに届かなかった。
男子ダブルスでは、全国大会初出場の高嶋道選手・林達也選手(共に3年)組が3位に入賞。優勝を狙っていた高嶋選手は、「林選手とは、2年生から一緒に組んでいるペア。優勝はできなかったが、初出場で3位という結果もうれしく思う」と話した。
同じく男子ダブルスに出場した優勝候補の西豊選手・渡辺勇大選手組は、団体戦の疲れが取れず、本来の動きができなかったがベスト8まで勝ち進んだ。東日本大震災や東京電力福島第一原発事故による転校や練習環境の変化。それらの試練を乗り越えて、猪苗代中学校として出場した全国大会。終わってみれば全6種目中5種目で優勝という史上初の快挙を成し遂げた。彼らの活躍を支えたのは、震災や練習不足を言い訳にしない、何があっても絶対に諦めないという気持ち。王者、富岡一中時代に育んだ芽は、震災を乗り越え、猪苗代で練習をするうちにさらに大きく、強く育ったのだと信じていた。富岡一と猪苗代。二つの名前を背負って戦った生徒たちの姿は、全国の強豪に「王者健在」を強く印象づけたのではないだろうか。



いろいろな人を元気づけたかった。支えてくれた人たち、家族のためにも勝ちたかった
東野 有紗 選手(左)

全国制覇の瞬間、全国に散り散りになっている富岡一中の友だちの顔をよぎった
三橋 健也 選手(左)

チームをまとめることを第一に頑張った。
夢を諦めなかったから優勝できた
濱北 もも 選手(右)

地元に戻ると、知り合いが自分のために練習場を作ってくれた。練習場所も探してくれた。優勝して恩返しをしたいと思った
光島 理貴 選手(右)

会場で応援してくれた父母たちに感謝の気持ちを伝えたい。
応援はすごく力になった
渡辺 勇大 選手(右)



支えてくれたすべての人に感謝して、その人たちのために頑張ろうと思った
西 豊 選手(左)

震災からしばらくは、練習すらできなかった。環境の変化も仲間と共に乗り越えた。震災を乗り越えてさらに強くなった、何があっても絶対に「諦めない」気持ち。それが王者のプライド



全国の舞台で見せた王者のプライド

第41回全国中学校体育大会バドミントン競技は8月22日から25日までの4日間、滋賀県大津市の滋賀県立体育館で開催され、23日には男女の団体戦が実施された。

団体はダブルス2戦、シングルス1戦の計3戦で争われる。猪苗代は男女とも2回戦から登場、準々決勝から決勝まで、すべて2-1という接戦を制し、決勝では男子が聖ウルスラ学院英智を、女子が皇徳寺を下し、男女ともに優勝を果たした。

「団体での優勝はチーム全体の勝利。個人戦よりうれしい」とは古賀、濱北両主将の言葉。諦めない気持ちとチームワークでつかんだ勝利だった。男女団体を同一校が制したのは大会史上2校目。富岡一中時代から数えると、男子は二連覇、女子は2年ぶり2度目の全国優勝となった。

翌24日からの個人戦では、男子シングルの古賀穂(3年)選手、女子シングルの大堀彩(3年)選手が登壇。昨年度準優勝の二人がその実力を遺憾なく発揮した。古賀選手は準決勝、決勝と相

手に先行される展開。「スロースターターなので、スイッチが入るまでが…」と本人が語る通り、スイッチが入った後半に逆転で勝利。男子シングルスで初優勝を飾った。昨年決勝戦で逆転負けを喫し、悔し涙を流した大堀選手は、2回戦から決勝までの全試合をストリートで勝ち進んでの優勝。スピードを生かした、安定した試合運びは圧巻の一言。見事、昨年の雪辱を果たした。

同じく男女シングルスに出場した小林大吾選手(2年)はベスト32、仁平菜月選手(1年)はベスト16とそれぞれ健闘。下級生ながら次につながる活躍を見せた。

女子ダブルスでは、東北大会を制した濱北もも選手・東野有紗選手(共に3年)組が登壇。

「先行されても諦めたら終わりだと思って頑張った。ベンチも諦めずに応援してくれた」と濱北選手。東野選手は、「足首のけがが不安だったけど、支えてくれるパートナーと優勝できてうれしい」と話し、諦めずに仲間と共につかんだ勝利を祝いあった。同じく女子ダブルスに出場した渡辺帆南選手(3年)・田島優乃華選手(2年)組はベスト16。決勝で濱北選手・東野選手

道標

全国制覇のためには選手たちの並々ならぬ努力があった。しかし、それだけでは勝利を手にするとはできなかった。選手たちは知っている。支えてくれる存在の大きさを。だから努力を続ける。自分たちの頑張りが逆に誰かを支えることを知っているから

猪苗代中学校特設バドミントン部の全国中学校体育大会優勝報告会は9月2日、役場3階の正庁で開かれた。

齋藤巨監督からの成績報告の後、男子の古賀穂主将が

「震災から2カ月が過ぎ、猪苗代で活動を再開したが、最初は不安なことばかりだった。大震災があったころは試合に出られるかどうか分からない状況だったが、何とか大会に出場することができた。支えてくれた人たちに感謝したい。次の大会に目標を定め、今できることをやっていきたいと思う」とあいさつ。続いて女子の濱北主将が

「全中では選手とベンチが一緒にになり、苦しい時でも励まし合うことができた。ここに至るまでには、たくさんの困難があったが、支えてくれた皆さんのおかげで乗り越えることができた。この結果に満足せず、これからも一層頑張っていく」と抱負を述べた。

震災によって多くのものが奪われたが、彼らは夢を持ち続け、それをかなえた。その姿は、富岡、猪苗代の両町民だけではなく被災地で生活するすべての県民にとって励ましになったに違いない。

5月8日、初めて家に来た子どもたちは、表情も硬く、不安な様子でした。富岡にいたころのようにリラックスして生活できるよう、別棟を全部寮にしました。

猪苗代中学校の生徒たちも転校生を暖かく迎え入れたようで、猪苗代に来て初めて練習が休みになった時、もう一緒に遊びに出かけていました。そんなこともあつて、現在ほんな落ち着いて生活している様子です。

七夕のときに飾った短冊には「みんな全国優勝」と書いてありました。全国大会に出発する日

も、選手たちは「優勝して帰ってきます」と言っていました。約束を守っての全国制覇は、私たちがうれしい。よくやってくれたと思います。8月30日には全国優勝後初めて全員が揃ったので、バーベキューパーティーでお祝いしました。

競技意識の高い子どもたちに関わることは、自分たちにとっても非常にいい刺激になります。私たちのほうが感動をもらっているくらいです。

これからも彼らが安心して競技に臨めるよう影から支えていきたいです。



選手たちの宿泊施設「あるばいんロッジ」のオーナー

平山眞さん(左)、妻のとし子さん(中央)、次男の武さん(右)

取材を終えて

原発事故後の混乱が選手たちの心に与えた影響は計り知れない。焦りもあつただろう、しかし、彼らもあつただろう、しかし、彼らはそれを感じさせない。

名門富岡一中で培ってきた実力、逆境に負けなかった努力と強い心。それ無くしては全国制覇は成し得なかった。しかし、それだけで全国制覇ができたかどうかは分からない。

一緒に頑張ってきた仲間もいれば、新しい友だちもいる。少しでもいい環境をとお支えてくれた先生、親や周りの大人もいるはずかずつではあるかもしれないが、それらが一つになって困難を乗り越える強い力になったのではないだろうか。

東日本震災で甚大な被害を受けた東北地方の沿岸部。その復興には内陸部の協力が不可欠であるように、私たちは支え合って生きている。

仲間や周囲と支えあい、決して諦めず、逆境を乗り越える強い心でつかんだ優勝旗。この優勝旗は福島県の、古里の復興の道標になるということは言うまでもない。

特集 諦めない強さ 終わりに
大会写真提供 高嶋誠司氏



9月2日、全国中学校体育大会優勝報告会後の記念撮影

Voice

富岡町民の励みに

富岡第一中学校の皆さんは、3月11日の震災後、通常とは違う生活と練習を余儀なくされています。しかし、その中で素晴らしい結果を出してくれました。

避難生活が続いている中、なかなか明るい話題もないというのが現状ですが、この話題はきっと僕だけではなく、町民の皆さんの励みになったのではないのでしょうか。



大和田豊一さん
(富岡町出身)

父母を代表してお礼を

東日本大震災の発生後、娘はいろいろな人の支えを受けて、猪苗代に転校しました。けがや困難を乗り越えての全国優勝。父母は子どもたち以上にうれしかったと思います。私も涙が止まりませんでした。体育館の使用などで協力してくれている猪苗代の皆さんや学校には父母を代表してお礼を言いたいです。ありがとうございました。



東野洋美さん
(北海道出身)
(東野有紗選手の母)

東日本大震災から半年 皆さんの善意をありがとうございました

3月11日の東日本大震災発生から6カ月が経過しました。この間、町では寄付金、義援金や支援物資などの受付をしまりました。支援物資などの受け入れ時には、可能な限り受付表で住所・氏名などを確認するようにはしていましたが、混乱した状況の中で未記入となってしまった物資や提供の申し出をい

ただいても在庫が十分なお断りした物資などもありました。匿名を希望された皆さんも大勢いらっしゃいました。すべての皆さんにこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。なお、氏名などに誤りや記載もれがありましたら、企画財務課までお知らせ願います。 ☎(62) 2112

寄付金

翁島駅前行政区、山瀨財産区管理会、猪苗代町消防団第四分団二部四班、ヨシケントラベル、堤崎区、猪苗代達磨会、東京猪苗代町民会、長野県伊那市、佐藤正一郎、猪苗代町体育協会会長 堀悟、猪苗代地区更生保護女性会、猪苗代華歌会

義援金

遠藤信行、廣瀬進一、猪苗代ロータリークラブ、猪苗代ロータリークラブIM実行委員会、常泉和弘、宇南山熊喜、(株)友貴、大鳳建設(株)、鬼多見清次、遠藤ミヨ、(株)京急イーエックスイン、阿部亜夫、日本歯科大学生命歯学部、(有)儘田製作所 儘田保夫、瀧口幸男、(株)日本司会者協会 村杉充男、本多和芳、全国町村議会議長会、猪苗代町職員労働組合、布施千秋、副町長・教育長・課長親睦会、福島県町村会、笹岡一級建築士事務所 笹岡正人、窓ぎわ文庫 宇月静子、高松一丁目町会 町会長下田朗、(財)自然植生観察園万葉の庭 理事長遠藤武士、磐水カラオケ教室、シダックス(株)、

東京都豊島区、(社)猪苗代町シルバー人材センター会員互助会女性部、東條デンタルクリニック 東條方厚ほかスタッフ一同、野口英樹、東京猪苗代町民会

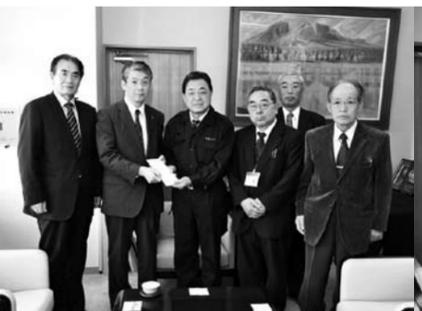
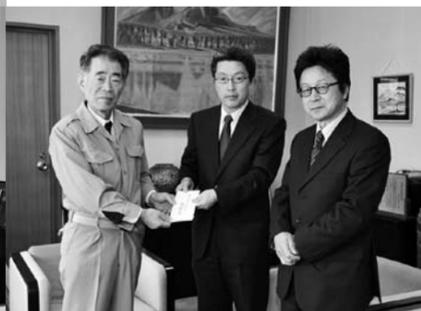
食料・物品など

埼玉県朝霞市、長野県伊那市、岐阜県関市、東京都豊島区、福島県災害対策本部、(社)猪苗代青年会議所 BANDAI 土屋幸光、NHK 田代昌久、NTT東日本一福島、会津地区青果物商業協同組合、会津保健福祉事務所、青木茂夫、青木志津江、青木優美、青木洋、青木利衛、赤城佑郁、あべ酒店、安部慎一、阿部荘一郎、阿部宙郎、五十嵐秀一、五十嵐久伸、五十嵐政信、石澤房昭、一ノ瀬正敏、猪苗代インテリア、猪苗代観光協会、猪苗代スキー学校、猪苗代スキークラブ、猪苗代町理容組合、猪苗代町社会福祉協議会、イナワシロミルクセンター、猪苗代薬剤師会、猪苗代をよくしよう会、井上美杜、井上香耶、井上陵一、井理雄司、岩室雄大、絵本サンタ、大川原建築、小川医院、小川和子、翁島

小学校、翁島小学校PTA、小熊義一、小椋弘子、小澤健一、押田キャサリン、小田嶋聡、加藤末雄、神和子、菊池信夫、菊池正一、キッチンひまわり、協和信用組合、蔵清太郎、栗城美帆、黒沢則夫、小坂橋敏弘、国際スキー場、寿田麻衣子、小林キヨ、小林孝一、小林光子、小林律子、(財)まちむら交流機構ふるさと応援隊、齋藤あきら、齋藤佑介、坂本、幸陽の杜、佐藤英子・奈良岡正美、佐藤公章、佐藤和恵、佐藤賢哉、佐藤定子、佐藤静二、佐藤佑美、佐藤秀樹、佐藤真理美、佐藤豊、真田智子、三交産業、三代漁網店、柴田丈伸、小松山、小松山勘一、白成舎、新町イ区、菅美幸、杉山典子、杉山雅英、鈴木、鈴木厚子、鈴木宗一、鈴木元、スターマルキン、聖川福音協会、大束憲一、高津和人、高藤誠二、高松良彦、但馬香里、但馬惟史、田中和哉、町立小中学校、東京電力猪苗代電力所、戸野部ミホ、トミーパーマ、中村昭司、成田明代、西村和史、ニトリ、二瓶、日本雑誌協会、日本歯科医師会、日本生命猪苗代支店、日本生命本店営業部、日本赤十

字社京都支部、橋本、長谷川歯科医院、菱沼秀美、平野紀雄、深谷健一、福島中央テレビ、藤井雪姫乃、藤井雪衣、藤倉和子、富士薬品会津営業所、古川富子、古川文和、古川真智子、星、ホテル五色荘、本多隆、増子直子、三浦幸喜、南相馬市サテライトサポートセンター、武藤貴美子、明治安田生命、森川葉子、森まさ子、耶麻歯科医師会、山田学、湯郷布森山、ユニクロ、吉田実、吉原きのえ、ライオンズクラブ332-D地区、涌井春男、渡部一男、渡部咲子、渡部寿雄、(株)大塚製薬、(株)柏屋、(株)クアアンドホテル、(株)太郎庵、(株)パナレイク、(株)福島民報社、(株)文芸春秋文庫センター、(株)ホテル森の湯、(株)ヤクルト福島工場、(株)ヨークベニマル、(有)降矢農園、京都府立宮津高等学校、宇南山、福島ミドリ安全株式会社、工房ポプリ、まるまつ猪苗代店、猪苗代リゾートホテル、三島町、(社)猪苗代観光協会会員

(順不同 敬称略)



Elementary school



写真上 3、4年生の自由形。応援に来た父母らは、その泳ぎから子どもたちの成長を感じていた様子でした
写真下 プールサイドで競技の順番を待つ間、一生懸命友だちを応援する児童ら

夏休みの練習の成果を披露

夏休みも終わり、日焼けした元気な姿で登校を始めた町内の小学生。プールも終わりに近くなり、町内の小学校では、水泳記録会などが開かれました。

翁島小学校の水泳記録会は8月31日、同校のプールで開かれ「全力で目指せ！自分の一等賞」をスローガンに、全校児童86人が自己記録の更新を目指しました。

それぞれのクラスに分かれて全力を尽くす児童の姿に、クラスメイトや応援に駆けつけた父母からは大きな声援が送られました。

記録会終了後の感想発表では、代表の児童らが「頑張って50m泳げた」「今までで一番速く泳げたと思う」などと発表。渡部仁一教頭は「今日のスローガンのとおり、みなさん本当によく頑張った。この頑張りを普段の生活の中にも生かしてください」と感想を述べました。

High school



写真上 フリーマーケットで接客する猪高生。店の周りには元気な笑顔があふれました
写真下 もくもくとフライパンを振り、モグモグとハンバーガーを食べ、まつりを盛り上げた大川原会長

猪高生が磐梯まつりで活躍

7月末に開催された磐梯まつり。そのおまつり広場に猪苗代高校の生徒会、JRC委員会の生徒ら約20人が出店し、まつりの盛り上げに一役買いました。

出店は、猪高生と町商工会青年部員との意見交換会によって決まったもの。青年部員らと一緒に夏野菜の Pasta やかき氷の販売、フリーマーケットやバルーンアート体験コーナーなどに取り組み、好評を博しました。

生徒会の大川原伸幸会長は「最初は戸惑いや緊張があったが、一日目でだいぶ慣れた。卒業生には社会人になって商売をする人もいるので、この経験や商工会の人とのつながりは財産になると思う。後輩にも続けてほしい」と感想を述べました。

佐藤剛太郎町商工会青年部長は「商売の難しさなどに触れるいい経験。地域の商工会として、これからもこうした交流を続けていきたい」と述べました。

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO



写真上 We love(ハートマーク)福島の文字と、一人一人が手書きした激励メッセージ入りの横断幕を贈ってくれた矢板東高1年生の皆さん
写真下 生徒を代表してあいさつした仲松なおきさん(左)

矢板東高から激励の横断幕

栃木県立矢板東高校の1年生約200人は7月30日、町役場を訪れ、大震災に見舞われた福島県や本町を激励しようとメッセージ入りの横断幕と千羽鶴を寄贈しました。同校は毎年、会津地方で教育キャンプを実施しており、44回目を迎えた本年も28日から2泊3日の日程でキャンプを実施しました。

贈呈式では大島明教頭が「福島の皆さんの協力のおかげで、大震災や原発事故後にもかかわらず充実したキャンプになった。恩返しとエールの意味を込めて贈呈します」とあいさつ。生徒代表の仲松なおきさんが「避難生活や風評被害のことを知った。今回のことを忘れず、福島の皆さんとともに学びたい」と述べ、激励メッセージを書き込んだ横断幕と千羽鶴を前後町長に手渡しました。

前後町長は「皆さんの若い力、エネルギーで猪苗代に活力をいただいた」とお礼の言葉を述べました。



写真上 工事の安全を祈り、かけ声とともに勢よくくわ入れをする前後町長
写真下 町教育委員会、工事関係者や地域住民など約50人の関係者が工事の安全などを祈願しました

園舎増築工事の安全を祈る

町内川桁の川東地区認定子ども園幼稚園舎増築工事の安全祈願祭・起工式は8月10日、川桁保育所隣の現地で執り行われました。式では、前後町長や工事に当たる会津土建の菅家洋一社長らがくわ入れをした後、参加者の代表らが玉串をささげ、工事の安全を祈願しました。

前後町長は「ますます多様化する子育てのニーズに応え、安心して子どもを産み育てられる支援をしたい。施設にはその役割の一端を担ってほしい」とあいさつを述べました。

幼稚園舎の構造は木造平屋建てで、延べ床面積は約850平方メートル、川桁保育所と合わせると約1400平方メートルになります。自然の光や風を十分に取り入れられるように考慮したほか、木のぬくもりを感じさせる建物になっています。来年4月からの入園に備え、3月までの完成を目指します。

High school

Kindergarten



水質日本一の復活を目指す

上戸浜でクリーンアップ作戦実施



上戸浜のごみを拾う参加者ら

町と猪苗代湖環境保全推進連絡会が主催する猪苗代湖岸クリーンアップ作戦は8月7日、上戸浜で開かれ、町民約50人が湖岸のごみ拾いなどに取り組みました。清掃開始を前に、前後町長が「日頃からの水質改善への取り組みや本日の清掃活動への参加に感謝しています」とあいさつ。その後、参加者らは約1キロにわたり湖岸を歩きながらごみを拾いました。

終了後には、県生活環境部水・大気環境課の清野弘主任主査による座学も開かれ、参加者らは猪苗代湖の水質の状況などについて学び、環境保全への誓いを新たにしました。

職員が環境整備に取り組む

町立病院でクールビズ、5S活動



病院前庭園の草むしりをする職員ら

町立猪苗代病院の環境クリーンアップデーは8月10日、同院で実施されました。この日は、職員らがさらなる節電を目指してクールビズで患者に対応。ティールームを開放し、お茶やコーヒーなどを振る舞ったほか、患者にとって心地良い受診・療養環境を整えるミニ5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)への更なる取り組みとして、敷地内の清掃や草むしりなどを実施しました。

※町立病院では10月3日から耳鼻咽喉科の診療を開始します。診療日は毎週月曜日、診療時間は午前8時30分～正午です。白土正人医師が、一般的な診療(検査・診断・治療)をします。

英霊800余柱の冥福を祈る

戦没者追悼式と慰霊祭が催される



献花をして英霊の冥福を祈る前後町長

町戦没者追悼式は8月5日、町体験交流館学びいなどで執り行われました。式には遺族連合会会員や来賓など約190人が出席、国歌斉唱の後、黙とうをささげ、先の大戦で犠牲になった800余柱の冥福を祈りました。前後町長が「尊い犠牲の上に築かれた現在の平和と繁栄を維持し、安心して暮らせる社会を作るため努力を続けていく」と式辞、山口靖明会津保健福祉事務所長、鈴木武喜議長が追悼の言葉を述べた後、出席者らが献花をし、英霊を慰めました。

追悼式に続き、町遺族連合会主催の慰霊祭が開催されました。

町のスポーツ振興の一助に

楽天イーグルス猪苗代球場が誕生



町、球団関係者や生徒らが出席した式典の様子

(株)楽天野球団が、地域との交流や野球の普及促進を図る東北楽天イーグルスフィールドサポートプログラム。同プログラムによる町運動公園野球場の愛称命名式・看板除幕式は8月6日、同球場で挙行され、前後町長と池田敦司楽天球団取締役副社長のサインボール交換やあいさつなどの後、球場の看板が披露されました。式典に続いて開催された野球塾には、猪苗代中、磐梯中や福島市の清水スポ少などから約100人が参加。同球団の今関勝ジュニアヘッドコーチや中濱裕之ジュニアコーチ(郡山市出身)らから熱心な指導を受けました。

風評被害をぶっ飛ばせ！！

町内6スキー場が強力タッグ結成



大会の成功に向け、意気込みを見せる関係者ら

「ゲレンデ逆走マラソン磐梯高原6スキー場CUP」の第1回運営委員会が8月18日、ホテルリステル猪苗代で開かれました。

町内の各スキー場でマラソンやウインタートライアスロンなどを実施するこの大会は、冬のスキーシーズンを前に安全・安心な猪苗代をアピールしようと町内の6スキー場が連携したものです。

10キロのレースでは、特別戦を除く全7戦でポイントを争い、最高得点を目指します。日程、競技内容や申し込みなど、詳しくはホームページをご覧になるか、電話で問い合わせください。

実行委員会事務局 ☎(67)4110 <http://www.gambaruzo.jp>

人口表示板がリニューアル

会津信用金庫が人口表示板を寄贈



前後町長に表示板を手渡す石井支店長(右)

会津信用金庫(本店・会津若松市、星幹夫理事長)の人口表示板贈呈式は8月9日、町役場で開かれ、同信金猪苗代支店の石井通雄支店長が前後町長に表示板を手渡しました。

町役場1階に設置されていた人口表示板は、もともと同信金から寄贈されたものでしたが、老朽化が進んだことに加え、同信金のロゴマークも古いままになっていました。そのため、同信金からリニューアルの申し出があったものです。

寄贈された人口表示板の大きさは縦60センチ、横45センチ。町役場1階の会計室横に設置されています。



福島の子どもたちに元気を

アンパンマンらがコンサート開催



人気のキャラクターが大集合したショーの様子

「それいけ! アンパンマン 元気 100 倍コンサート」は8月24日、亀ヶ城公園で開かれ、町内外から約1400人の親子連れが会場を訪れました。アンパンマンとその仲間たちは、子どもたちと一緒に歌って踊り、その心に元気や勇気を届けました。

コンサート終了後にはアンパンマンたちとの握手会も開かれ、子どもたちは目の前に現れたヒーローに大興奮の様子でした。

このコンサートは、主催のアンパンマンデジタルLLP、(株)フレイベル館、(株)トムス・エンタテインメント、日本テレビ放送網(株)や(株)福島中央テレビなどの好意で開催されたものです。

(C) やなせたかし/フレイベル館・TMS・NTV (C) APDLLP

夜空を焦がした希望の花火

本町で4年ぶりの花火大会を開催



色とりどりの希望の光が会場を包みました

東日本大震災復興イベントいなわしろ花火大会は8月13日、町運動公園で開かれ、「希望」をテーマに尺玉やスターメインなど、約2000発の花火が夜空を鮮やかに彩りました。

開会式では前後町長が「避難している人たち、福島の子どもたちに希望の花火を見せたい」とあいさつ。続いて渡部恒三衆議院議員、溝畑宏観光庁長官、内堀雅雄副知事らが祝辞を述べました。

磐梯まつり花火大会の取り止めから4年。町内で久しぶりに開催された花火大会を見物しようと町内外から多くの観客が訪れ、夏の夜を楽しみました。

冬の本番に向け心を一つに

SOの聖火が本町を出発しました



聖火を手に町内を駆け抜けたトーチラン

2012第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島のPRを兼ねたトーチランが8月27日、本町を出発しました。採火式が開催された磐崎神社から運ばれた聖火は、土津神社で分火され全国へと出発。2月10日の本大会まで日本全国を回り、たくさんの人の思いを集めて再びこの地に戻ります。

本町では、聖火を手にした一行が土津神社からスタート。町内を回り、ゴールのカメリーナまでを駆け抜けました。カメリーナでは、聖火を前に参加者全員が心を一つにし、大会の成功を誓い合いました。

鉄人たちが己の限界に挑む

猪苗代の雄大な自然を舞台に激走



441人の鉄人たちが町内を駆け抜けました

第13回うつくしまトライアスロン in あいづは8月21日、天神浜をスタート、ゴールにするスイム(1.5^{キロ})、バイク(40^{キロ})、ラン(10^{キロ})の計51.5^{キロ}で開催されました。

13回目を迎えた同大会ですが、町内だけで競技が実施されるのは今回が初めて。スターターを務めた前後町長は「最後までレースを諦めず頑張ってください」と選手たちを激励しました。

大震災の復興支援イベントとして開催された今大会。雨に負けず、全力を尽くすたくましい鉄人たちの姿は、復興への無言のエールのように感じられました。

今こそ、人の心に豊かさを

復興に向け、チャリティー舞踊会



みほ乃会会員の舞踊「関東春雨傘」

花柳流みほ乃会(花柳寿美衡会主)主催のチャリティー舞踊会は8月28日、学びいなどで開催されました。第一部は花柳流みほ乃会の舞踊会、第二部は共催の詩吟神聖流聖涼支部が「詩吟、義経」を披露。第三部では福島元気復興企画として、民謡堀内流一藤会、伊藤はじめさんが福島民謡メドレーなどを披露しました。

伝統文化の担い手が一堂に会し、発表を通して震災後の復興に必要な心の豊かさや元気を届けたこのイベント。踊り手や唄い手の思いが込められた発表は、会場を埋め尽くした500人以上の観客を魅了しました。

東軍殉難者の御霊安らかに

戊辰戦争の激戦地母成峠で慰霊祭



母成慰霊碑前で執り行われた慰霊祭の様子

戊辰戦争の激戦地、母成峠の戦いで戦死した東軍殉難者の慰霊祭は8月21日、母成慰霊碑前で執り行われ、母成弔霊義会会員や殉難者の子孫など約30人が出席しました。

仏事に後、母成弔霊義会の橋本彦一会長が祭文を読み上げ、前後町長が「郷土を守るため、身命を賭けて戦い、不運にも尊い命を捧げた英霊を偲び、心からご冥福をお祈りします」と弔辞を述べました。戦死者の霊を慰めるため毎年奉納される吾妻小学校児童による白虎隊剣舞は、雨のため中止になりました。

この慰霊祭は、母成弔霊義会の主催で毎年開かれています。

病気から子どもを守る予防接種

予防接種とは

赤ちゃんは母親からいろいろな病気に対する免疫をもらって生まれますが、その免疫は生後8カ月から12カ月ごろまでに失われていきます。そのため、赤ちゃん自身が免疫力をつけなければなりません。この免疫力をつけるために役立つのが予防接種です。

予防接種とは、ワクチン（病原体や毒素の力を弱めて作った薬液）を接種して免疫をつくり、病気に対する抵抗力をつけて発病を予防したり、症状を軽くしたりする方法のことです。

予防接種には、法律に基づいて市町村が実施する定期接種（期間内に受ければ無料）と、接種者の希望で受ける任意接種（一部費用助成もあるが多くは有料）があります。また、定期接種には、町が実施する集団接種と各自医療機関に行く個別接種

子どもとヒブ・小児用肺炎球菌

任意接種のうち、ヒブと小児用肺炎球菌の予防接種については、4月1日から町の一部費用助成が始まりました。

ヒブはインフルエンザ菌b型(Hib)と呼ばれる細菌で、新型インフルエンザや冬に流行する季節性インフルエンザとは全く別のものです。イ

種があり、それぞれ対象となる病気、ワクチンの種類、対象年齢、期間などが定められています。予防接種の詳しい内容は町ホームページ、「平成23年度乳幼児健診・予防接種・健康相談日程表」などで確認してください。

接種スケジュールは、乳幼児健康診査などで医師や保健師が適切な時期を説明しますが、いつ接種すればよいのか困った時は、町保健福祉課に相談してください。

インフルエンザ菌は子どもの鼻や気道などに存在しています。保菌しているだけでは問題ありませんが、子どもは肺炎球菌に対する抵抗力がないため、比較的簡単に感染してしまいます。肺炎球菌に感染すると、細菌性髄膜炎や肺炎、菌血症、中耳炎といった病気をひきおこします。

細菌性髄膜炎は、ヒブや肺炎球菌などの細菌が脳や脊髄を包む髄膜の奥まで入り込んで起こる病気です。症状は、熱が出る、吐くなど風邪との区別がつきにくいいため、病気の発見が遅れることがあります。診断されたときにはかなり病気が進行してしまっているということも少なくありません。細菌性髄膜炎にかかる

時には命を落としてしまうこともあります。中には、発熱してからわずか1日で命を落とした例もあります。細菌性髄膜炎は、年齢ともにかかりにくくなりますが、5歳ごろまでは注意が必要です。ヒブと肺炎球菌による細菌性髄膜炎などの重い感染症を予防するためには、早い時期に免疫をつけることが大切です。

今春、2種以上のワクチンを同時接種した後に死亡した子どもがいたことと、ヒブと小児用肺炎球菌の予防接種が一時中断されました。その後、同時接種と死亡した子どもの因果関係がないことが分かり接種は再開されましたが、現在も保護者の皆さんからは不安や質問の声が多く聞かれます。副反応を心配して予防接種を受けない人もいますが、その病気に感染した場合のリスクや重症化する頻度を知らずに判断することは危険です。現

在、ヒブに感染する人は年間800人以上、肺炎球菌に感染する人は年間300人以上います。時には命に関わったり、重い後遺症が残ったりすることもあります。ワクチン接種による事故より、接種を受けずに病気になる方が確率ははるかに高いと言えます。

したがって、これらの予防接種については、各家庭でよく考え、かかりつけの医師と相談の上、接種を選択してください。また、ワクチン接種は体調の良い時に受けるのが基本です。子どもの体調に注意し、安全に受けられるようにしましょう。

子どもや大切な家族の健康を守るため、また、他の人にうつさないためにも、予防接種についてよく理解し、接種を受けましょう。

▼相談・問い合わせ先
保健福祉課
健康づくり業務
☎(62)2115



みんな笑顔で「ハイ、チーズ」

「猪苗代は子育てには良い環境。二人ともおびのびと元気に育てほしい」パパとママはそう言って二人にやさしく手を添えます

佐藤 暖花 ちゃん

平成 22 年 5 月 生まれ

～関脇

孝行さん・亜紀子さん夫婦の長女

「こんにちは」と大きな声であいさつをする兄 尊音くんとは対照的、少し恥ずかしがり屋な暖花ちゃんは、お父さんの膝の上ではにかんんでいます。

暖花ちゃんの遊びは、お兄ちゃんの後を追うことから始まります。絵本やアニメ番組を見るのもブロック遊びも全部お兄ちゃんと一緒に。大好きな電車は、おじいちゃんたちと一緒に乗ったり、見たりして楽しんでいきます。

毎日のお風呂はお父さんの仕事。食事の世話なども積極的にしてくれるイクメンの孝行さんに、亜紀子さんは「本当に助かりますね」と笑います。

子どもたちが家族の中心だという佐藤さん一家。休みの日には、よく四人で散歩に出かけ、電車に向かって手を振ります。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。
☎(62)2111

サークル紹介

Circle introduction

学びいなの中に入ると、どこからともなく聞こえてくる伸びやかな歌声。その正体は猪苗代歌謡教室の皆さんです。

「歌の好きなメンバーが集まって、とにかく楽しく歌うことを目的に活動している」と話すのは鈴木覚会長。月に2回、13人の会員が学びいなか練習を重ねています。

9月25日には、町内のさまざまな団体をゲストに迎え、チャリティーショー、いなわしろ歌謡ステージを開催します。

ステージの演出などを手がける佐藤貞二さんは、「ステージを見た人を勇気づけ、楽しませるものになりたい。歌の楽しさを感じに、ぜひお出でください」と話しました。

このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。
☎(62)2111

猪苗代歌謡教室

さとる 覚会長 (鈴木 覚会長)



(写真左) とにかく楽しく活動することが一番と話す鈴木会長
(写真右) 9月25日に開催される、いなわしろ歌謡ステージのパンフレット。歌、踊りと太鼓の競演をお楽しみください

9月25日の公演に向け、気合十分の会員の皆さん



生涯学習課からのお知らせ

■母から子への手紙コンテスト 選考委員を募集します

猪苗代町絆づくり実行委員会では、第10回母から子への手紙コンテストの一次選考委員を募集しています。町内に住む18歳以上の女性ならどなたでも応募できます。協力していただいた人には記念品を差し上げます。

○応募・問い合わせ先：学びいな内猪苗代町絆づくり実行委員会事務局 ☎(72)0180 (担当 荒川)

○締め切り：9月30日(金)

○応募方法：電話もしくは直接事務局へ申し込んでください

※一次選考会は10月16日(日)午前9時～午後5時に学びいなどで実施されます。



写真は一昨年の選考会の様子。真剣な表情で作品と向き合うお母さんたちの緊張が伝わってくるようでした。

■生涯学習講座 「小倉百人一首競技かるたに挑戦」

「小倉百人一首」は藤原定家撰と伝えられ、天智帝から順徳院にいたる歌人百人の名歌を一首づつ集め、京都嵯峨の小倉山荘の障子に貼ったのが始まりと言われています。江戸時代、歌カルタとして庶民の間に広まり、現在まで親しまれていますが、それぞれの歌の意味や作者の思いはあまり知られていません。

この講座は、歌の意味や作者の思いなどを学びますので、古典の世界への入門として楽しんでいただけます。全5回の講座中2回はすでに終了していますが、途中からの受講もできます。百人一首の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

○日時：9月24日(土)、10月22日(土)、11月19日(土) いずれも午前10時～正午

○場所：学びいな和室研修室 ○講師：鈴木邦子先生

○費用：無料(ノートと筆記用具を持参してください)

～学びいなと図書室の休館日～

学びいなのは毎月のメンテナンスのために休館日を設けています。また、併設されている町図書室の休館日も同じ日になります。

○休館日：9月26日、10月2日、24日、11月20日、28日、12月4日、26日、28日～翌年1月4日

■町民球技大会地区大会が閉幕 中央大会出場チームが決定

町民球技大会地区大会は翁島・月輪地区で8月7日、千里・長瀬地区で21日にそれぞれ開催され、各地区で熱戦が繰り広げられました。千里・長瀬地区のソフトボール競技は雨天中止になり、抽選で代表が決定しました。

猪苗代・吾妻地区の代表は7月24日に決定していますので、これで全6地区のすべての代表が出揃いました。

9月11日(日)に開催される中央大会で優勝の栄冠を手にしたのはどのチームでしょうか。地区大会の結果は以下のとおりです。

【翁島地区】

- ソフトボール 優勝/三城瀧 準優勝/土田
- バレーボール 優勝/西久保 準優勝/蟹沢・長浜

【月輪地区】

- ソフトボール 優勝/上戸・上戸駅前・湊志田 準優勝/山潟
- バレーボール 優勝/山潟 準優勝/上戸・上戸駅前・湊志田

【千里地区】

- ソフトボール 第1代表/千代田 第2代表/扇田
- バレーボール 優勝/八千代 準優勝/富永

【長瀬地区】

- ソフトボール 第1代表/白津 第2代表/東館
- バレーボール 優勝/川桁 準優勝/白津・東館

■後期英会話教室の受講生を募集

10月11日から後期の英会話教室が始まります。町の英語指導助手アラン・インクスター先生が、やさしくていねいに指導します。楽しみながら本場の英語を学びませんか。

【一般初級者コース】午後6時30分～午後7時25分

【一般中級者コース】午後7時35分～午後8時30分

※初級者コースは中学生レベル、中級者コースは高校生レベルを対象とします。

【幼児コース】午後6時30分～午後7時

【小学生コース】午後7時10分～午後7時40分

○日時：初級/中級者コース 10月11日・25日・11月8日・22日・12月6日・20日

幼児/小学生コース 10月

12日・26日・11月9日・

24日・12月7日・21日

○場所：学びいな研修室

○参加費：無料

※申込時に、受講コースの希望をお知らせください。

長身でイケメンのアラン先生

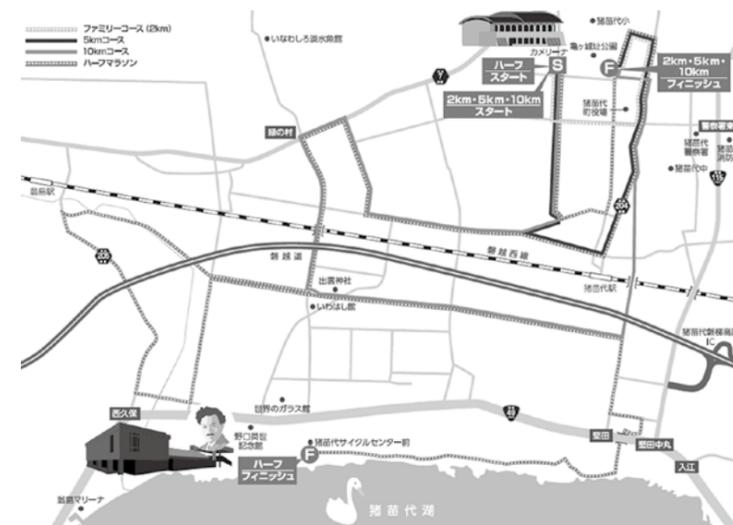


ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン 2011

「ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン 2011」は10月30日(日)、福島県を代表する名勝猪苗代湖周辺を走路に開催されます。

この大会は県内外から多くのランナーに参加してもらい、東日本大震災や原発事故などで困難に直面している福島県の風評被害を払拭し、福島県の安全・安心をアピールするとともに、本町の優雅な自然や風土を日本全国、世界に向けて発信し、郷土の復興につなげようという趣旨の基に開催されます。

ハーフマラソンのほかU18男子の10キロ、U18女子の5キロ、親子で楽しめる2キロと多彩なコースで参加を受け付けております。スムーズな大会運営へのご協力、多くの皆さんの参加と選手たちへの応援をよろしく願います。



※大会のコースマップ

■大会要項

○参加資格：健康で登録部門を主催者が設定した制限時間内に完走できる男女。※種目の年齢は、大会当日(10月30日時点)の満年齢を適用します。

○参加料：ハーフマラソン男女A～E 5,000円、U18男女 1,500円、親子の部 3,000円(いずれも傷害保険料を含む)

○定員：3,000人(各部門の合計、申し込み順で締め切り)

○締め切り：9月30日(期日までに参加料の支払いが必要)

○申し込み方法：(1)電話 ☎0570(037)846

(2)インターネット <http://www.sportsentry.ne.jp>

(3)ファクス ゼビオ各店で配布されているファクス専用紙に記入し、FAX 0120(37)8434

※(1)～(3)のいずれかで申し込んでください。

○問い合わせ先：ゼビオ猪苗代湖ハーフマラソン事務局

☎024(935)0966 FAX 024(935)0969

※参加種目一覧

種目	距離(km)	制限時間
① 男子A (19歳以上 30歳未満)	21.0975	180分
② 男子B (30歳以上 40歳未満)		
③ 男子C (40歳以上 50歳未満)		
④ 男子D (50歳以上 60歳未満)		
⑤ 男子E (60歳以上)		
⑥ 女子A (19歳以上 30歳未満)	21.0975	180分
⑦ 女子B (30歳以上 40歳未満)		
⑧ 女子C (40歳以上 50歳未満)		
⑨ 女子D (50歳以上 60歳未満)		
⑩ 女子E (60歳以上)		
⑪ U18男子(16歳以上 18歳以下)	10	90分
⑫ U18女子(16歳以上 18歳以下)	5	60分
⑬ 親子 父母と小学1～3年生の子ども、2人1組	2	60分

教育委員会コラム

第十七回

「岩櫃島」月輪村閩協の西南に在り、断崖十数丈巉岩削るが如し、巖上石松多く数百年の色を表はし、春の躑躅、夏の藤、秋は紅葉何れも人目を悦ばず。西は湖に面し小彼岸を洗い、夕陽波に砕けて輝く。これは耶麻郡地域の歴史勉強テキスト「耶麻郡誌」、「名勝」の部に見られる記述である(切立つ西傾斜は、岩と年経た松の間に、ツツジ、フジやモミジなどの季節の花々が咲き誇り、湖水から寄せる波飛沫が夕陽に映え誠に美しい)。

国道49号沿いの給油所、コーナンフリートの東側、磐越西線の線路脇に通称「馬石」と呼ばれる小山があり、これが岩櫃島である。岩館山の突端部、頂上部分の平坦部に本丸を持つ中世の山城跡で、山崎闇斎の撰による「猪苗代八景」の一つ「壺下の夕照」の地でもある。背後の岩館山からは、湖水に浮かぶ島のようにも見え、かつ防御の拠点であるという意味を込めて「岩櫃島」と呼んだのだろうか。東日本大震災は本町にも相当の被害をもたらした。中でも壺下、金曲などの被害が大きかった。このあたりは地盤が軟弱で、地面を掘るとすぐ水が出るほどである。今の国道などは湖の中だったことを示している。活断層などの問題もあるが、地盤の弱い最大の原因が、昔は、この辺りまで湖水が迫っていたことにあると思う。(土屋)

催し

心に残る楽しい学習発表会を創ろう

猪苗代養護学校では、日頃の学習の成果を発表する場として、学習発表会を実施します。劇などのステージ発表、児童生徒の作品展、本校の日頃の活動を体験できるイベントコーナーや作業学習製品の販売コーナーなど、盛りだくさんの内容です。

地域の皆さんと一つになり、楽しい学習発表会を創り上げたいと思います。本校の児童生徒と交流を深めてみませんか。皆さんのご来場をお待ちしています。

▼場所 県立猪苗代養護学校

▼日時 10月15日(土)

午前9時20分～午後2時

▼ステージ発表

午前9時30分～午前11時

▼作品展

午前9時30分～午後2時

▼製品販売・イベント

午前11時～正午

▼外部団体との交流

午後1時～午後1時20分

※進行状況により、時間が若干

生活

子どもと妊婦にバジ式線量計配付

県では、市町村の放射線線量計整備に対する支援事業を実施します。

町はこの事業を活用し、放射線の影響を受けやすいとされる子ども(中学3年生まで)と妊婦を対象に、バジ式線量計を配付します。子どもを持つ親や妊婦の放射線に対する不安を解消するため、10月から積算線量の計測を開始します(希望による申し込み制です)。



線量計はネックホルダーに入れて着用します。透明なケースの中にあるのが線量計

対象者には個別に通知しましたが、もし届いていない場合は保健福祉課まで問い合わせてください。震災で避難している子どもと妊婦も該当しますので、実施を希望する人は問い合わせてください。

前後することがあります。

▼問い合わせ先

県立猪苗代養護学校

☎(65)2151 担当 大内

内水面水産試験場で楽しいイベント

がんばろう！福島の水産試験場

県の内水面水産試験場では、地域の皆さんに施設や研究内容(淡水魚への放射能の影響など)を知ってもらうため、施設を開放し、展示やイベントを実施します。ご家族お揃いで、ぜひお出かけください。



昨年の内水面水産試験場参観デーの様子

▼日時 10月1日(土)

午前10時～午後3時

▼場所 県内水面水産試験場

(緑の村)隣

▼内容

○試験研究の成果展示

○お魚ウルトラクイズ

○会津ユキマスなどの試食

▼問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり業務
☎(62)2115

掲示板

告示

- ・第75号「猪苗代町総合健康診査等実施要綱」
- ・第76号「不動産等の最高価申込者決定通知書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第77号「差押解除通知書の公示送達について」
- ・第78号「猪苗代町指定給水装置工事業者指定について」(上下水道課水道施設業務)
- ・第79号「差押書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第80号「配当計算書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第81号「臨時議会招集」(総務課行政管理業務)
- ・第82号「国民健康保険被保険者証無効公示」
- ・第83号「充当通知書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第84号「公売通知書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第75号「軽自動車税納付書の公示送達について」(税務課賦課業務)
- ・第86号「公売通知書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第87号「農業委員会招集」(総務課行政管理業務)
- ・第88号「平成23年度町県民税納税通知書の公示送達」(税務課賦課業務)
- ・第89号「平成23年度固定資産税督促状の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第90号「平成23年度町県民税納税通知書の公示送達」(税務課賦課業務)
- ・第91号「平成23年度町県民税納税通知書の公示送達」(税務課賦課業務)
- ・第92号「猪苗代町指定給水装置工事業者指定について」(上下水道課水道施設業務)
- ・第93号「充当通知書の公示送達について」(税務課収納業務)
- ・第94号「平成23年第5回臨時町議会招集」(総務課行政管理業務)
- ・第95号「平成23年度国民健康保険税の公示送達」
- ・第96号「東日本大震災による被災者に対する保育所保育料の減免に関する要綱」(保健福祉課保育所業務)
- ・第97号「国民健康保険被保険

相談

役所や特殊法人への苦情を受けます

国、県、市町村などの役所やN・Tなどの特殊法人の仕事について、苦情、意見や要望を受けるのが行政相談会です。

▼日時・場所

9月21日(水) 役場3階
日本間 午後1時～午後3時

10月17日(月)～23日(日)の1週間は「行政相談週間」です。

期間中は毎月1回の定例相談会に代えて出張相談会を開設します。

相談は無料、秘密は厳守します。気軽に相談してください。

▼日時・場所

○10月17日(月)

翁島駅前公民館

午後1時～午後3時

○10月18日(火)

川桁防災センター
午後1時～午後3時

▼町行政相談委員

宮沢 重正さん(下館)

☎(66)39995

▼問い合わせ先

総務課 秘書広報業務

☎(62)2111

一人で悩まずに、相談してください

町と人権擁護委員は、人権標語の懸垂幕とスウィングバナーを作成し、磐梯まつりの日から役場庁舎に設置しました。祭りの会場でも啓発物品を配布するなど、人権啓発活動に日々取り組んでいます。

男女差別、DVやいじめなど人権に関わる問題でお悩みの人は、人権擁護委員の人権相談所にご相談ください。相談は無料、秘密は厳守します。

▼日時 10月7日(金)

午前10時～午後3時

▼場所 役場3階 日本間

▼問い合わせ先

総務課 秘書広報業務

☎(62)2111



写真は改善センター前に設置したスウィングバナー

公告

- 者証無効告示
(町民生活課国保年金業務)
- ・第24号「個人情報開示の実施状況の公表」
- ・第25号「猪苗代町農業振興地域整備計画変更に伴う公告」
- ・第26号「国営安積疏水二期土地改良事業計画書の公告」
- ・第27号「農用地利用集積計画について」
- ・第28号「農地委員会農地業務」
- ・第29号「インターネット公売の公告について(第3号)」
- ・第30号「抑留犬公告」
- ・第31号「農用地利用集積計画について」
- ・第32号「抑留犬公告」
- ・第33号「抑留犬公告」
- ・第34号「抑留犬公告」
- ・第35号「抑留犬公告」
- ・第36号「抑留犬公告」
- ・第37号「抑留犬公告」
- ・第38号「抑留犬公告」
- ・第39号「抑留犬公告」
- ・第40号「抑留犬公告」
- ・第41号「抑留犬公告」
- ・第42号「抑留犬公告」
- ・第43号「抑留犬公告」
- ・第44号「抑留犬公告」
- ・第45号「抑留犬公告」
- ・第46号「抑留犬公告」
- ・第47号「抑留犬公告」
- ・第48号「抑留犬公告」
- ・第49号「抑留犬公告」
- ・第50号「抑留犬公告」
- ・第51号「抑留犬公告」
- ・第52号「抑留犬公告」
- ・第53号「抑留犬公告」
- ・第54号「抑留犬公告」
- ・第55号「抑留犬公告」
- ・第56号「抑留犬公告」
- ・第57号「抑留犬公告」
- ・第58号「抑留犬公告」
- ・第59号「抑留犬公告」
- ・第60号「抑留犬公告」
- ・第61号「抑留犬公告」
- ・第62号「抑留犬公告」
- ・第63号「抑留犬公告」
- ・第64号「抑留犬公告」
- ・第65号「抑留犬公告」
- ・第66号「抑留犬公告」
- ・第67号「抑留犬公告」
- ・第68号「抑留犬公告」
- ・第69号「抑留犬公告」
- ・第70号「抑留犬公告」
- ・第71号「抑留犬公告」
- ・第72号「抑留犬公告」
- ・第73号「抑留犬公告」
- ・第74号「抑留犬公告」
- ・第75号「抑留犬公告」
- ・第76号「抑留犬公告」
- ・第77号「抑留犬公告」
- ・第78号「抑留犬公告」
- ・第79号「抑留犬公告」
- ・第80号「抑留犬公告」
- ・第81号「抑留犬公告」
- ・第82号「抑留犬公告」
- ・第83号「抑留犬公告」
- ・第84号「抑留犬公告」
- ・第85号「抑留犬公告」
- ・第86号「抑留犬公告」
- ・第87号「抑留犬公告」
- ・第88号「抑留犬公告」
- ・第89号「抑留犬公告」
- ・第90号「抑留犬公告」
- ・第91号「抑留犬公告」
- ・第92号「抑留犬公告」
- ・第93号「抑留犬公告」
- ・第94号「抑留犬公告」
- ・第95号「抑留犬公告」
- ・第96号「抑留犬公告」
- ・第97号「抑留犬公告」
- ・第98号「抑留犬公告」
- ・第99号「抑留犬公告」
- ・第100号「抑留犬公告」

みんなの美術館

9月は吾妻小学校のお友達の作品です

Our Museum



「WE LOVE トンボ」

夏休みに家の畑でトンボとりをしました。2匹捕まえることができ、楽しかったので、それを描きました。絵の中では、大きいトンボがお気に入りです



國分 ^{のぞみ} 希さん(1年)



「私の天気」

一枚の絵に全部の天気を描きたくて描きました。この様子を想像してみたら、ものすごかったです。真ん中の雨が降っている部分が一番気に入っています



小椋 ^{ともえ} 友恵さん(2年)

食生活改善推進員コーナー

～旬の野菜でカンタン料理～

No. 172

サツマイモようかん

(メタボ予防メニュー)



■一口メモ■

カサツマイモにはビタミンCや食物繊維がたっぷり含まれています。体の外も中もきれいにしてくれる、女性にはうれしいおやつです。砂糖を控えめにして作りましょう。

【材料】 4人分

サツマイモ 150g^㉔・牛乳 大さじ 4・小麦粉 大さじ 2・砂糖 大さじ2程度までお好みで(控えめに)

【作り方】

- ① 電子レンジで加熱し、柔らかくしたサツマイモを熱いうちに皮付きのままつぶします。
- ② ①に砂糖、牛乳と小麦粉を加え混ぜます。
- ③ ラップに包んだ②を電子レンジで2分間加熱します。
- ④ すのこを使って③の形を整えます。
- ⑤ 包丁で切り、皿に盛り付けたら出来上がり。

【一人当たりの栄養量】 エネルギー 94kcal、タンパク質 1.4g^㉔、カルシウム 33mg^㉔、炭水化物 20.4g^㉔、脂質 0.8g^㉔、食物繊維 1.0g^㉔